

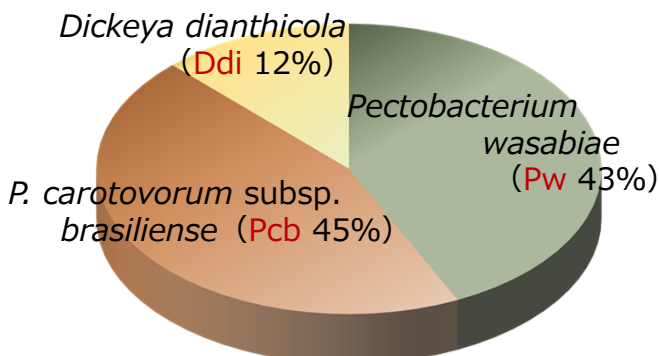
ジャガイモ黒あし病の種いも保菌リスク

概要 Abstract

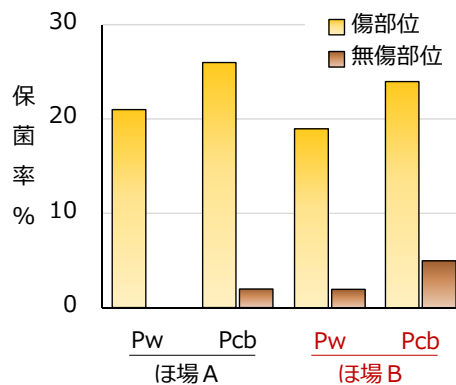
- ・病原細菌は4菌種 (Ddi, Pw, Pcb, Pa) と同定。
- ・近年の発生はPwとPcbの2菌種と判明。
- ・種いもの通風乾燥処理は表面保菌の低減に有効。
- ・種いも保菌リスクと対応の考え方を提示。
- ・いもや土壌から病原菌を検出できる「高精度診断法」を開発。



成果 Results

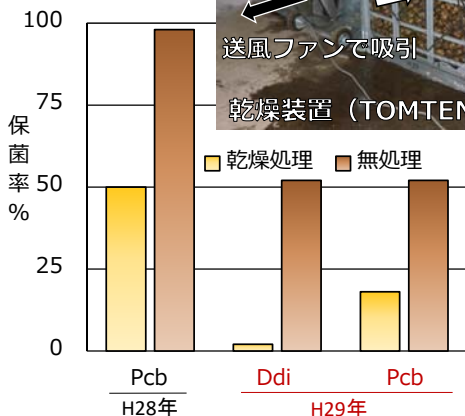


**P. atrosepticum* (Pa)の発生はない



▲ 種いもの傷部位で保菌しやすい

▲ 近年の発生菌種



▲ 通風乾燥処理による種いも表面保菌の低下

種いも・切断刀の消毒

→ 必ず実施

- ・種いもの表面保菌を低減 (内部保菌・傷いもには効果不十分)
- ・切断刀の接触伝染を低減

催芽処理

→ ★ 過度に催芽しない

- ★ 過度の催芽による芽の損傷で保菌リスク大

発病株の抜き取り

→ 新しいもを含めて搬出

- ・残存するとリスク大

茎葉処理

→ ★ 発生ほ場では避けた方がいい

- ★ リーフチョッパー処理は保菌リスク大

収穫・選別

→ 丁寧に扱う 選別除去

- ★ 傷部位は保菌に好適
- ★ 腐敗いもの混入は保菌リスク大

収穫いもの乾燥

→ ★ 通風乾燥装置を活用

- ・表面保菌を低減

★ → 本試験の成果

▲ 各工程における保菌リスクと対応の考え方

普及 Dissemination

種いも生産現場における黒あし病のリスク低減対策として活用！

本試験は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(27005C) および北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 生産流通振興事業の援助により実施しました。

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部 生産環境グループ
0155-62-2431
tokachi-agri@hro.or.jp